

野良猫を減らす
取り組みを!



金子 裕美
議員

問 野良猫に無料で避妊去勢手術ができる公益財団法人どうぶつ基金が発行するチケットの行政枠を使い、捕まえて手術をして元の場所に戻すTNR活動を始めてはどうか。

生活環境部長 野良猫問題の根本的な解決を図るため、既にチケットを利用して自治体や、栃木県動物愛護指導センターの意見を参考にしながら、チケット活用について検討していく。



▲不妊手術を受けた猫のイラスト(耳先カットがその目印)

◆空き家・空き地の活用による人口増加・移住政策

問 旧市街地は、商店などが身近にあり住みやすい環境であるが、空き家も多い。人口増加策として空き家等の活用を進めてはどうか。

都市建設部長 平成30年度に本市で開設する空き家・空き地バンクにおいて、空き家等の物件情報を全国に発信する。その中で、本市の魅力や生活しやすい環境なども積極的にPRし、市外の方に関心を持ってもらい空き家等が活用されることで、人口増加や住宅地の再生につながることを考えられる。

小俣最終処分場
について問う!



須田 瑞穂
議員

問 11月16日に宇都宮地方裁判所で行われた第4回口頭弁論において、土地所有者との和解協議が打ち切りとなったが、今後の市の対応について聞きたい。

市長 上級審も含めて問題の抜本的解決となる最善の方法を現在探っている。引き続き小俣最終処分場の水処理等を適切に行い、地元にご迷惑をかけないよう努めるとともに、市民の毎日の生活に支障を来たすことのないよう対処していく。

◆産業廃棄物の最終処分場建設計画

問 地元の小俣城山町では民間の処分場建設計画に反対を決議し、署名活動も行っている。市はこの計画をどう考えているのか。

市長 小俣城山町の皆様が高質な判断で市の処分場へご理解、ご協力されているのは、足利市から出ているごみの灰だからである。計画中の民間処分場は全国からごみや灰が集まってくる。そうしたごみで小俣を、そして足利市をごみの山にするわけにはいかない。断固たる姿勢で反対していく。地元と議会と市が一体となり、情報交換と意思疎通を図りながらこの問題に臨んでいきたい。



小俣処分場が
埋め立てできるよう
最善を尽くせ!



尾関 栄子
議員

問 9月議会の私の一般質問で、副市長は「この人(地権者)」と話し合いはできない」と回答した。地権者に対し、市長の責任として副市長に謝罪させることで、契約更新を進めるべきではないか。

市長 6月29日の法廷で過去について謝罪を申し上げた上で、和解の協議についていたが、相手方からは理由はなく私が謝ったが、相手方からは理由はない。和解は打ち切りという返事であった。市民の皆さんは、あれだけ市長が誠実に謝ったのだから向こうも誠実に応対してくれるだろうと思っていたが、そうではなかったという流れである。

◆本当の「働き方改革」

問 ストレスチェック制度では、50人以上の事業場に毎年実施が義務づけられている。各学校単位ではなく、教育委員会を一つの事業場として捉え、全ての学校で実施すべきではないか。

教育長 ストレスチェックは必要であると考えており、実施について検討していきたい。

